

二学年通信 (第13号)

泉松陵高校第二学年

2015.10.22

2学年第2回スタディーサポート結果について

二学年主任 小野木 徹

君たちが高校へ入学してから計4回のスタディーサポートを受けてきましたが、前回までは毎回成績が低下していくという好ましからざる結果が続いていました。しかし、その成績がようやく下げ止まりを見せ、上昇に転じました。結果内容を見れば、まだまだという部分も多いのですが、全般的な傾向としては良好です。ただ、試験というものは単に受けっぱなしではいけません。実力を高めていくためには、結果を受け止め振り返ってみる必要があります。各教科担当の先生方からのアドバイスに目を通しておきましょう！

★各教科担当の先生方からのアドバイス

① 国語

【現代文】

〈現代文・知識〉

問一は5問中3問くらい正解してほしい。問二はどれだけ日本語を習得しているかが問われる。5問中4問正解してほしい。問三は難しいものもある。5問中2問正解できればよい。

〈現代文・評論読解〉

難しい。得点できなくてもやむを得ない面がある。しかし、この文章を何度も熟読し、解答・解説を何度も熟読して復習することには大いに価値がある。

問一は難解だが良い問題である。4から10があくまでも「合理や進歩、個人という観念」について述べられている部分であることが見破れると正解できる。

問二は最後まで読まないで解けない。傍線部Aにかかわる本文の内容を読み解くのはかなり難しいのだが、問二を解くだけなら最後まで読めればできる。その意味では質の悪い問題である。

問三は正解の選択肢(③)の表現があまりよくない。「その通俗的誤用」という表現があいまいであり、また「根拠」と言っているのか判断に迷う。少なくとも新川にはよくわからない。

問四は良い問題である。6から7をきちんと読めば、消去法で正解にたどりつく。

問五は「本文全体の主旨」とある。「趣旨」ではなく「主旨」である。だから、最も大事な内容について述べているものを選ばなくてはならない。たとえ、本文の内容に合致していても、本文の最も大事な内容について述べていなければ正解とならないので、注意が必要である。

〈現代文・小説読解〉

問一は選択肢が悪い。①か③かまで絞ることができるが、その後がよくわからない。①と③の最も大きな違いは、①「的確な比喻を用いて」か③「象徴的に表している」かの違いとなるが、「象徴」と断言できるかどうか微妙である。もっとも、②・④・⑤を選んではいけない。

問二も選択肢が悪い。③が擬人法なので、正しいというのはわかる。しかし、「鏡」を「平面世界」と呼ぶのは換喩ともとれるので、④も正解の可能性が出てくる。ゆえに悪問である。

問三から問五は悪くない。消去法で解けるはずである。

【古典】

今回、最も正答率が低かったのは、古文の「助詞」と「重要古語」についての問題です。

助詞では、「の」「だに」「ばや」の文法的な意味が問われました。「の」は比喻(～のように)／主格(～が)／同格(～で)、「だに」は類推(～さえ)／最小限の希望(せめて～だけでも)、「ばや」は願望(～たい)を意味します。助詞については、授業でこれまであまり詳しく

扱ってきませんでしたので、正答率が低くても仕方ありません。しかし、文章を正確に理解するためには助詞の理解が欠かせないのも事実です。後期の授業では、これまでやってきた用言の活用や助動詞の意味・接続に加えて、助詞についても詳しく学習していきます。文法書を繰り返し引いて、少しずつ、確実に身に付けていきましょう。

同様に、古文を読解していくうえで欠かせないのが重要古語です。いまの皆さんを見ていると、「テスト前に、授業で扱った古語を、その時だけ覚えて、点数を取る」という勉強(一夜漬け)に終始しているように見えます。それではせっかく授業で扱った古語も知識として身に付きませんし、まして受験に対応できる語彙量は身に付くはずがありません。古文は現代に生きる皆さんから見れば外国語も同然です。外国語学習で単語を覚えるように、古語についてもその都度、辞書を引いて、意味や用例・成り立ちなどを確認し、記憶に関連性を持たせて覚えるようにしていくことが大切です。

最後に…。模試は受けっぱなしではいけません。「解答・解説」を最大限活用してください。「解答・解説」には、解法が詳しく載っています。これを使って必ず復習するようにしましょう。そして、できれば(受験生は必ずやっています)、数週間後に再度同じ問題を解き直してみよう。そうすることで知識が定着し、実力が養われていきます。ぜひやってみてください。

② 数学

分野別に見ると、どのクラスも「ベクトル」の定着率が低い。公式を十分に理解できていないため、公式を利用した基本的な計算ができていない。この点については、課題用の問題集による反復練習だけでも充分対応できるはずである。後期は、さらに一つ次元の上上がった空間におけるベクトルへつながる所でもあるので、平面ベクトルに不安のある生徒はしっかり復習しておくことが不可欠である

(数学Bは週2時間しかないのに、新しい内容に触れる前に充分取り返しができるので、諦めず取り組むこと)。

その他、学年全体をとおして特別成績のよかった分野はなかった。

家庭学習の習慣化が必要で、継続して問題練習・反復学習を行うこと。これだけで、基礎学力の定着は見られるはず。また、数学の苦手意識を捨てること、つまり、各自の意識改革も重要である。

苦手意識をもっている限り、それが邪魔をして基礎学力の定着がなかなかできないことが多い。「好きになれ!」とは言わないので、「嫌いだ!」「苦手だ!」とは思わないよう努めて欲しい。

数学を得意とする生徒、また、理系の大学・学部進学を考えている生徒へ。スタサポの問題レベルに留まることなく、応用力をつけるための学習をやること。チャート式の問題を制覇するぐらいの気持ちで取り組むと入試レベルには近づくでしょう。また、解答の書き方も模試の正解例をみて真似するところから始めよ。式だけの羅列や自分だけが分かるような書き方ではダメ!文を書く、論理的な展開が出来るようになることを目標に練習すること。

10月下旬に模試があるので、それに向けて少しでも進歩できるよう頑張ってください!

③ 英語

学習結果が、B3→B2にと上向いた。受験準備は「順調」で高校生活スタイル定着も「順調」タイプが全体の約55%を占めている。反面、学習方法「要チェック」、「学力向上への学習習慣の見直し」が必要なグループも40%という状況であった。

学習習慣面では、英語が苦手と思う生徒が3%減少した。(好ましい傾向です)「英語の学習をほとんどしない」は少し前回よりも減ってはいるが約51%とここは問題である。「予習をしていない」も約26%と減少している。

意識調査に関わる部分では全体としては少しずつ良い方向に向いている。

さらに英語に関する意識では、「英語をマスターしたいと思っている」生徒が非常に多い。また、定期考査に向けて英語の勉強の開始の早さでも全国平均を上まわった。さらに、非常に

感心したことは「音声はメモをとりながら聞く」も全国を悠に上まわっている。このことは、大学の講義のノートをとるのには絶対欠かせない事項である。

英語の細部面では、文法面の正答率が低い。特に、関係代名詞・関係副詞の理解面、文章読解面では未知語の類推、指示語の理解が今後の課題である。

今後に向けて、本校2年生約8割に必要なことは長文読解対策、英文の主旨理解、文法面の克服、表現力育成が望まれる。

2015年度 スタディーサポート2年生2回	S1	0	18人 成績上昇 グループ														10人 前回・今回とも 成績上位 グループ		
	S2	0																	
	S3	0																	
	A1	0																	
	A2	0																	
	A3	0																	
	B1	0																	
	B2	4	1							1	2								
	B3	24			1	3	6	6	6	2									
	C1	25			4	1	7	9	3	1									
	C2	63	5	2	7	21	11	16	1										
	C3	34	4	3	7	8	6	5		1									
	D1	65	9	6	20	21	4	4	1										
	D2	32	5	7	9	11													
	D3	25	13	5	2	3													
	合計	272	37	23	50	68	34	41	13	6	0	0	0	0	0	0	0		
	235人 前回・今回とも 成績下位 グループ	合計	D3	D2	D1	C3	C2	C1	B3	B2	B1	A3	A2	A1	S3	S2	S1		
2015年度 スタディーサポート2年生1回																			



※自分がどの位置に居るのかを、上記グラフで確認してみよう！ 斜めの網掛部分より上の者は、前回（3月実施のスタサポ）から成績が上がっていることになります。

※5月の学年通信でも同様の話を書きましたが、今回の成績が**Dランク（D1～D3）の者は、大学進学が極めて難しい状態**にあります（今回Dランクの者は70名）。まずは、Cランクへの上昇を目指してみましよう！